

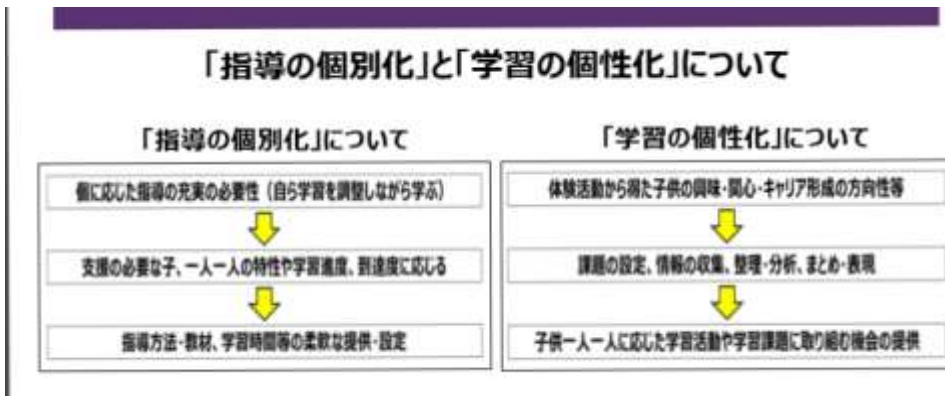
第2回 体の動きを高める運動部会記録

1 参加者

河野・古川・畠中・関川・岡田・大川・山本・藤原・小木曾・森田・横山・鈴木・坪根
担当常任理事：高草木先生・黒澤先生

2 正副報告（古川先生より）

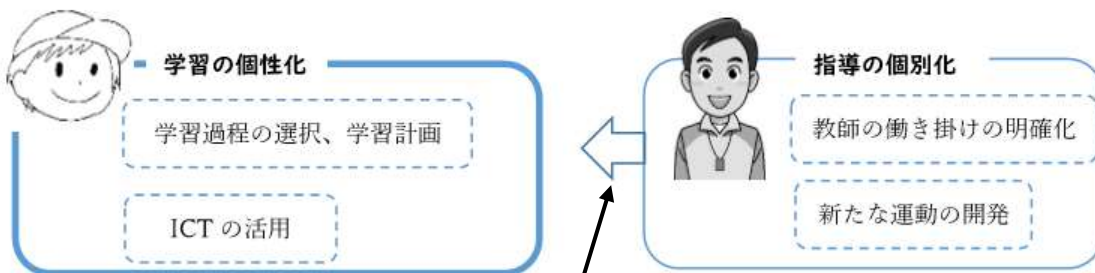
○学習の個別化について・・・前回の正副でなるべく子ども目線で考えてほしいという話がでた。



3 正副の課題について

【畠中先生より】

2 各部会が捉えた「指導の個別化」と「学習の個性化」から捉えた具体的な方策



畠中：2の図式化したものに意見がほしい。

山本：矢印は順序性があると捉えられてしまうのでは。

畠中：中心になるのは「学習の個性化」なので、一応太枠にしてみた。順序性があると捉えられないよう工夫する。

古川：学習の個性化について、本部会のような領域は、学習の積み重ねを可視化できるのが魅力だと思う。ここにロードマップのことも入れてもいいとは思いますが、学習計画とは違うと思うから説明が必要か・・・

藤原：「学習過程の選択」について、私たちは分かるが、他の方が聞くと？になってしまう。もう少し「動きを選ぶ」のような言葉があると分かりやすいかも。入れないのであれば、補足説明が必要。

畠中：学習過程が複数あるべきなのは他の領域の話を書いたらまちまちだった。

古川：前回の正副の話からは、2の「各部会が捉えた～」をより具象的に示すようにと受け取れた。

畠中：子供目線でというのも気になった。自分は今回文字より可視化重視で作成してみた。

大川：この資料がどのような目的なのかにもよるが。例えばICT活用についても具体的にどのような場面やどのような使い方をするのかまでは載せなくてもいいのか。ここでは部の方向性が示せばいいのかどうか。

畠中：ICTに関してはまだ部会でも深くは検討できていないが、プロモーションビデオのことについての説明はできる。

河野：学習の個性化って本部会ではずっとやってきてる。これまでの違いは、運動内容を縛らないということ。ICTの活用も撮るだけでなく、昨年作成したユーチューブ動画なども児童が使えれば一般化にもつながる。やはり今年度は、教師が何を教えるのかなどを明確にしていきたい。昨年度の継続でやっていくので。あまりむずかしく考えなくていい。

岡田先生の授業日が7月8日にほぼ決まりそう。岡田先生の授業で何を売りにしていく検討していく。新たな運動の開発もそれに間に合えば入れていきたい。

4 岡田先生の授業案について

【岡田先生より】

5 1学期実証授業の学習過程

時間	1（本時）・2	3～8	9・10
段階	「体の動きを高める運動」の課題を見出す	「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。	「体の動きを高める運動」で自己の体の動きを高める
学習活動・内容	これまでの経験を振り返る。	運動を通して、一人一人が課題を見だしている。	運動を通して、一人一人が課題を見だしている。
	体の動きを高める運動のイメージをもつ。		
	体の動きを高める運動をやってみる。		
	運動を通して、一人一人の問いをもつ。		
	一人一人の問いを全体で共有する。	自己の課題を解決するために運動する。	自己の課題を解決するために運動する。
	問いを分類する。	新たな問い、課題を見出す	新たな問い、課題を見出す
	問いから課題を見いだす。	課題や解決方法を共有する。	課題や解決方法を共有する。

岡田：畠中先生の実践をもとに作成した。大きく3つの段階に分けた。学習過程を作っていて感じたのは、1時も大事だが、3～8時がポイントになると思う。これまで本部会がやってきたことは「学習の個性化」にとってもヒットしていた。1時のオリエンテーションが10時間かけて児童に浸透していた。なので、改めて教師の働き掛けを明確にしていく必要がある。

関川：3～8と9・10の学習活動が全く同じだが、ねらいが少し変わるので、違いを出さなくてもいいのか。学習の流れは同じで構わないと思う。

河野：流れは同じだが、取り組む時間は変わってくる。ここに予想される児童の学びの姿や課題の違いなどがを示せればいいと思う。

本時について

岡田：運動は長縄、短縄、フープ、ボールで考えている。動画については、児童同士の関わり合いのようなものを入れたいと考えている。

畠中：動画をバージョンアップしたいと考えた意図は？

岡田：昨年やってみて、多様がなかなかぬけなかった。

畠中：それなら後にとっておいてもいいかも。自分の実践では後半で多様と高めるの違いに気づいていった。それから、1時に2回動画を見せるのは効果的だった。見て→やってみる→また見る。運動時間は少し減るかもだけど。その時でた問いは、「どういう風になりたいか、願い」が多かった。学習課題2。

大川：自分のピフォアフター動画も学習課題2が多く出た。「どうすればできるようになるのか」

古川：藤原先生の動画は13分と長かったが、逆にそれがよくて、児童がよく考えていた。やはり課題2が多くてた。

山本：岡田さんの授業では、動画の効果についてじっくり検証できるというい。

河野：多様との違いは、児童が気付けるといい。やはり動画は大切。ちなみに部会の方の多様と高めるの違いは？

大川：多様は動きを増やす（広げる）高めるは目的をもって質を高める。

小木曾：多様はイメージの幅を広げていく。高めるはできたことを積み上げていくレゴや積み木のようなイメージ。

河野：岡田先生の1時では、何を求めるか。

大川：多様と高めるの違いに気付かせる動画はむずかしい。

畠中：1時で目的に辿りつく子は少ない。動画でてこ入れするか。

古川：自分の実践はなかなか目的意識が持てなかった。だからロードマップを活用した。藤原さんの動画は4要素出やすい。そこから目的意識につながっていった。

大川：4要素をこちらから示すと、目的意識が高まっていった。

河野：目的意識はこちらから示していく。それがいい。

河野：動画は意欲面。目的意識はロードマップのほうがいいのかも。

大川：確かに河野先生の授業で、最終的にどのような姿になっていたか共有していたのがよかった。

河野：ロードマップは、最後の姿を共有して、そこに向かうまでどうするかという使い方だった。

全体を通して

坪根：単元計画を見て、9・10時のゴールは何か、児童の姿であると分かりやすい。もちろんいくつかあると思うが。

鈴木：問いの持たせ方を詳しく知りたい。また、学習過程は同じだけど、解決方法の選択と言われた方がしっくりくるかもしれない。児童の具体的な姿が示せるとよりよい資料になると感じた。

河野：5年生のゴールは、学習課題1・2・3を経て、解決している姿。

畠中：問いをもち、課題を見出している姿が大事。

藤原：教師の働き掛けでは、明確にするという意味でも、文言集があるといい。

5 最後に

古川：岡田先生の授業では、体の動きについて考える。多様とのつながり、違いに気付かせ問いをもたせていく。

河野：新たな運動の開発は、知らない人がどの動きがいいのかが分かりやすいものがある。バンブーのようなもの。動きを高める意識につながりやすく、実感もしやすいもの。それぞれが考えてほしい。

横山：河野先生の陸上の8秒走の実践が分かりやすかった。目的意識をもたせるための8秒走。そしてロードマップの活用のしかた。運動の開発は過去のものもう一度思い出して。港南小の遊具でも色々やった。河野先生の研究員でも。前からポイントや工夫がしやすいものでやっていた。

森田：何をゴールとするのが大事。令和日本型学校教育25ページにも載ってる。これまで理論から実践だったものから、実践から理論づける逆パターンの研究も楽しい。

6. 本時の展開（1/10時）

学習活動	○教師のかかわり ○配慮児童への支援	□評価
1 集合・整列・挨拶		
2 これまでの学習を想起し、「体づくり運動」をやってみる。	○4年生までの学びを振り返るとともに、児童の学習状況を把握する。	
3 運動プロモーション動画をみる。	○学習活動までの自己の運動の違いを意識しながら見るように声をかける。	
4 本時の学習課題を設定する。	○児童から出された問いをもとに課題を確認し、全体の音聲に整理する。	
体の動きを高める運動とはなんだろう？		
5 動画と自己の取り組み方の違いを意識しながら運動に取り組む。	○問いを振り返りて共有すること伝える。 ○「どんなことを意識しながらやっているの？」と思考を促す言葉かけを行う。	口本の動きを高める運動に積極的に取り組んでいる。（運動・発声）
6 整理運動・片付け	○各部位を意識して運動するように声をかける。	
7 体の動きを高めるということについて振り返る。	○個人の振り返りを書き終わった児童には、黒板に書いた問いをホワイトボードに貼るよう指示する。	口本の学習を振り返り、一人一人が問いをもっている。（学習カード・発声）
8 挨拶		

高草木先生：総会1名は出席よろしくお願いします。活動費もその時渡します。会場費も2回分です。

黒澤先生：目的意識という言葉何回か出てきた。古い言葉でいえば、内発的動機付け、外発的動機づけというものがある。内発的な動機を児童にもたせられる研究をしていきたい。個人的にも必要を感じ、色々やっている。